

まず初めに、台風の影響で1日中止というアクシデントもありましたが、実質4日間のインターンシップを受け入れていただきありがとうございました。あらためて振り返ってみると、今回のインターンシップ期間中は本当に充実した日々を過ごす事ができました。簡単ではありますが、感想を述べさせていただきますと思います。

今回のインターンシップに応募したのは、大学の掲示板に掲載されていたチラシをたまたま見て、地方での就職についても考えてみようかなと思った事がきっかけでした。私が数ある法人や企業がある中で、インターンシップ先として熊本にある社会福祉法人慶信会を選んだのは、2016年の熊本地震で被災を受けている場所に少しでも貢献出来る事はないかと考えました。また、自分の中で将来は障がい福祉関係に進みたいと決めていました。そういった事を踏まえて検討していった結果、法人の中でも最初の資本金が多く、相談支援が県と市の委託を受けていた点からも透明性や公益性が高いと感じた社会福祉法人慶信会に行きつきました。

ここで、私がなぜ障がい福祉関係に興味を持ったのか簡単に説明しますと、高校時代に中途失聴の友人がいて、まともに授業を受ける事が難しいのに殆んど情報保障もなく、学業成績も低いという問題がありました。「なぜ、同じ人間同士なのに同じような教育が保障されていないのか」を考える事が最初のきっかけだったと思います。そういった事もあり、今回のインターンシップを通して1番知りたかった事の大きなテーマとして『障がい者の存在意義』というものが自分の中でありました。結論から言うと、今回の体験を通して障がい者の存在は社会においては必要な存在であり、本当に個性的で魅力的な人が多く、そんな皆さんの人生に関わる事が出来て本当に楽しかったです。この仕事に大きなやりがいを感じました。

1日目のみなサポやしょうなんキッズのスタッフの方、3日目のワーク・ライフサポートセンターの里さんや就労移行の山口さん、4日目の就労継続支援B型の前田さん等、各事業所の役割や目的、利用者さんの事について多くの時間を割いて、丁寧に情熱的に教えていただきました。3日目に話しをしていただいた事務局長の甲斐さんは、福祉の歴史と共に育ち、生きて来られた方で、話しの内容がとても具体的で非常に興味深かったです。その他にも関わって下さった職員さんや利用者さんに感謝を述べたいです。これだけ多くの恵まれたスタッフによって今の慶信会は成り立っているのだと感じました。多くの栄養士さんも配置されており、食を通じた自立支援という働きも感じる事が出来ました。

最後にまとめとして、このインターンシップを通して障がい福祉の魅力と面白さをあらためて実感しました。応募してよかったです。利用者さんも職員さんも優しい人が多く、本当に素敵な時間と場所でした。選んでよかったです。大学3年生の為、そろそろ就職活動を始めようと考えていたこの時期に過ごした4日間は、短い期間ではありましたが、「都会ではなく地方での就職も十分に検討すべきだ」と自分の中でも大きな変化をもたらした4日間でした。もっと知りたい、もっと学びたいと思う事が多く、まだまだ時間が足りなかったと感じています。ただ、地方の魅力を十分に感じる事が出来たこのインターンシップは最高のおもてなしだと思っています。

今回学んだ事を無駄にしない為にも、働く事が障がい福祉の発展に繋がると思うので、残り少ない大学生活でしっかりと資格を取れるように勉強し、就職に繋がっていきたいと思います。将来の事は分かりませんが、同じ障がい福祉の道を目指すものとして、本当に貴重なインターンシップでした。あらためてお世話になりました。ありがとうございました。また、熊本に来た際は魅力的な利用者さんや職員さんに会いたいです。

本田 晃太郎